

平成24年度 大好評!「わが家のすこやか日記」

泣いたり、笑ったり、時にはおこったりと子育ては日々ドラマの連続です。「わが家のすこやか日記」では、家族のふれあいや子育てに関するエピソードなど、子どもから大人まで様々な世代の方から昨年お寄せいただいた作品のうち、優秀作品10作品を紹介いたします。

うれしい約束賞

だいすきなだっこ

わたしはだっこされるのがだいすきです。だけど、おかあさんはおなかにあかちゃんがいるからだっこしてくれません。そのかわり、おとうさんがたくさんだっこしてくれます。わたしが五十さいになるまでだっこすると、おとうさんとやくそくをしました。だからおとうさんは、トレーニングをいまからがんばっています。やくそくのとしまでだっこしてくれたらうれしいです。おとうさんががんばってね。

岡山市立旭竜小学校 第1学年 勢野 菜夏さん

がんばれ!小さいお母さん賞

小さいお母さん

私のお父さんは、仕事でいつも帰りがおそい。だから、おふろは、お母さんが、弟、妹の順番におふろに入れる。妹は、まだ一さい。おふろの時間は、私が小さいお母さんになる。おふろあがりの妹をタオルでふいて、オムツをはかせて、パジャマに着がえさせる。まだ、よちよちあんなだけだけど、とてもにげ足が速いので、いつもくたくたになってしまふ。お母さんが、おふろからあがってくると、「ありがとう。小さいお母さん。」と言ってくれる。とてもつかれるけれど、また、おふろのお手つたいをしようと思う。「小さいお母さん。」私は、このよび方をとても気に入っている。

矢掛町立矢掛小学校 第4学年 室 萌花さん

ありがとうがんばったね おじいちゃん賞

手をにぎり、家族で送ったおじいちゃん

ガンだったおじいちゃんは、在宅治りょうをしていました。とうとうなくなる日、おじいちゃんを大好きなぼく達は、手をにぎったり、体をさすったりしてあげながら、「ありがとう。おじいちゃん。」と、言ってみ送りました。おじいちゃんは、ねむるように天国に行きました。「がんばって生きてくれてありがとう。おじいちゃん。」

岡山市立高島小学校 第4学年 小野田 大樹さん

仲よしサッカー兄弟賞

ぼくの弟

ぼくの弟はしょうがいがあり、上手く歩けません。でもサッカーが好きで、よくぼくとあそびます。最初は、けるだけでころんだりしてたけど毎日学校から帰って、二人でやっていくうちに、どんどん上手になってきました。弟はサッカーの試合をテレビで見て練習していくうちにドリブルやキーパーも出来るようになっていたのでびっくりしました。これからもぼくがコーチになってサッカーを教えてあげたいです。

岡山市立津島小学校 第5学年 平松 亮介さん

家族のチームプレイ賞

大変な一日

お母さんが急に熱を出した。すこくしんどそうだった。すると四才の妹が氷枕を出して、タオルで包んで、母さんの頭にのせた。母さんは、びっくりした顔で笑って「ありがとう。」と言った。僕は、「しまったー、やられたー。」と後悔した。でも僕は、洗たく物をたたんだ。母さんがにっこりして、「助かるわ。」と言った。この日のご飯は、父さんが用意した。そして三人で協力して一日を過ごした。母さんの大変さがわかった。次の日、母さんは、熱が下がり、にっこり元気ないつもの母さんだった。ぼくは、うれしかった。【補足説明】お母さんは、いつも家の仕事をハキハキとやっています。たまには、いっしょに遊びますが、いつもは、すこく働いています。

岡山市立竜之口小学校 第6学年 原 健人さん

気づいた母の優しさ賞

小さな思いやり

最近、母とのすれ違いが多くなった。夜遅くまで仕事をしている母は、帰宅するとどこもなく疲れているように見え、話をする機会もめっきり減った。そんなある日、寝付けず居間へ出てくると母はそこで僕の服を直してくれていた。知らないところでとても気づかってくれていて、なんだか少し嬉しかった。母のやさしさを改めて感じる事ができた。

県立岡山操山中学校 第2学年 福野 雄斗さん

毎日が感謝で賞

ありがとう

僕は中学校を卒業するときに、今までの感謝の気持ちを手紙に書いた。本気で書いた。すると、四、五行目くらいから涙が自然とあふれてきた。毎日毎日ただただ生活してきたけれど、今意識してみれば、本当に両親に支えられた生活だった。毎日毎日、冬の寒い日でも洗濯をしてくれた。毎日毎日、ごはんを作ってくれた。毎日毎日、充実した生活ができるように働いてくれた。父さん、母さん、本当に僕を育ててくれてありがとう。こんな風に感謝の気持ちを伝えるのは、とても大切なことだ。これから先、まだまだ迷惑をかけることがたくさんあるだろうが、一日一日を精一杯生きて、感謝の気持ちを返していこう。

県立津山高等学校 第1学年 鳥取 岳広さん

涙と思い出のリュックサック賞

リュックサックの思い出

息子が保育園の年長の時のことです。親子バス遠足の前日も、私が仕事から帰宅したのは九時過ぎ。息子は寝てしまっていました。ポンヤリと部屋に入ったとき見えたのは、息子のリュックサック。自分で用意したんだろうなあ、お弁当用のシートやゴミ袋、おやつもちゃんと入っていました。自分で持ち物の準備など、全くした事がなかった息子。楽しみにしてくれていたんだなあ。忙しくてあまり相手もしてあげられなくてごめんね、と、涙が出ました。今でも息子のリュックを見ると、思い出します。そして明日も頑張ろうと思うのです。

津山市 豊岡 慶子さん

誕生日のありがとう賞

誕生日

今年、兄が二十歳の誕生日を迎えた。それまでの数年、兄は誕生日のプレゼントは要らないと言って、その度母は寂しいような嬉しいような顔をしていた。すると今年、兄は自分の誕生日に、家族に誕生日のプレゼントを渡してきた。一体どうしたのかと私たちが訊くと、兄は誕生日は祝ってもらうものではなく、生んでもらったことに感謝する日だと思ふ、と語った。私は驚いた。実は私も同じ考えをしており、中学三年の頃から、誕生日の夜には親に生んでくれてありがとう、と言っている(お金があまりないので物は贈れないが)。普段兄となかなか話さないのだが、やはり兄妹なんだなあ、と実感し、なんとなく嬉しく思う。私はこの家に生まれて良かった。

県立倉敷商業高等学校 第2学年 中塚 恵さん

二十歳の誓い賞

二十歳の手紙

十二月八日、朝、ポストを開けると、切手の貼っていない「おやじ、おかんへ」と書いた息子からの手紙が入っていた。今日は息子の二十歳の誕生日。夜中のうちにこっそり手紙を入れに帰ったようだ。内容は、今までの感謝の言葉と、今現在、周りの人に支えられて頑張っている事が書いてあり、最後に「二人が思っているような立派な大人になれないかもしれないけど、一生懸命生きていく事を誓います。」と締めくくってあった。息子にやられた!朝から目を赤くしてしまった。【補足説明】二年前の事なので、もう時効かなと思って応募しました。(息子に怒られるかもしれないので…)手紙をもらってしばらくして、名前入りポエム額もプレゼントしてくれました。

吉備中央町 山本 春美さん

平成24年度「岡山県児童生徒いじめ防止ポスター」県教育長賞・優秀賞作品

県教育委員会では、6月の第1月曜日からの1週間を「いじめについて考える週間」と設定し、学校や家庭、地域において、いじめを許さない意識や態度を育み、いじめの未然防止に向けた取組の充実を図るとともに、「いじめ防止ポスター」の募集を行っています。次の作品は、平成24年度に応募のあった作品のうち、県教育長賞及び優秀賞を受賞された作品です。

岡山県教育委員会教育長賞



総社市立総社小学校2年 清水 芙実

〈ポスターに込めた思い〉



これからもっと、いじめがなくなればいいと思うし、みんながたのしい気分が学校にかよえることができると一ばんいいなと思います。一人ぼっちはとてもさみしいことです。わたしは、あい手の気持ちの分かる人になりたいです。

優秀賞



ノートルダム清心女子大学 附属小学校1年 増田 梨央



倉敷市立中洲小学校3年 出原 歩実



岡山市立岡山中央小学校4年 原田 泰杜



和気町立佐伯小学校5年 西中 悠真



倉敷市立倉敷第一中学校1年 出来田 彩恵



総社市立昭和中学校2年 大月 幸子



県立津山工業高等学校1年 小島 里奈



県立高梁城南高等学校1年 平松 真由子

※学年は平成24年度のものです。